2010年
ロックの殿堂入り

1985年
「Cliff Hanger」
グラミー賞受賞

2013年
「Rebirth」
グラミー賞受賞

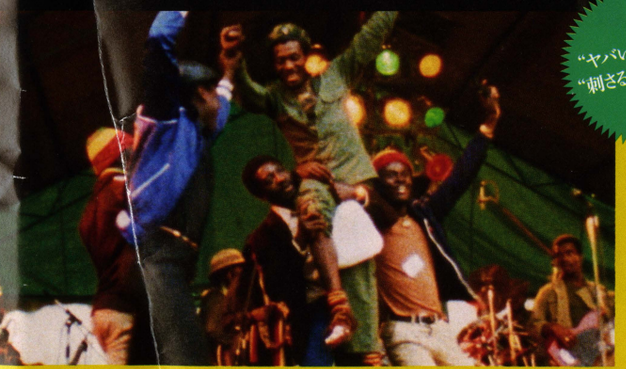
沸き踊る情熱のリズム、永遠なる魂の歌声。

キース・リチャーズ、ジョー・ストラマー、マッドネス、ランシド……

ロックレジェンド・パンクスからも愛される、不滅のレゲエヒーロー!

パトカーのサイレンが鳴り響き、燃えさかる街並みを前に「欲をかくものは、全てを失う」と高らかとアジテートするジミー・クリフ。映画は、二大政党JLPとPNPによる激しい抗争の最中、混沌とした熱気に包まれるジャマイカの風景からはじまる。1980年、故郷サマートンでのフリーライブ。丘を重機でならし、ステージを一から作る、ボランティアによる手作りのライブだ。地元愛に溢れた素晴らしい演奏を聴かせてくれる。そして南アフリカのソウェト、ドイツのハンブルグと続くツアーにクルーが密着。16ミリフィルムにその熱狂を収めていく。カルト的人気を得たジミー主演同名映画の楽曲「ハーダー・ゼイ・カム」のほか、日本では車のCM曲で馴染み深い名曲中の名曲「遥かなる河」などセットリストも強力だ。ボブ・マーリーへの敬愛を込めて歌う「ノー・ウーマン・ノー・クライ」も実に美しい。ヒット曲も数多く、ポップな魅力と、キース・リチャーズ、ジョー・ストラマー、マッドネス、ランシド等々ロック界からも溺愛される反骨精神溢れる、絶頂期のジミー・クリフを捉えた貴重なドキュメンタリーだ。

Bongo Man
Wanted
Fundamental Reggae
Stand up and fight back
Many rivers to cross
I'm the living
Vietnam
No women no cry
She's a woman
Hard road to travel
Going back west
Let's turn the tables
The harder they come
I'm the living



"ヤバいリズム"と"刺さるメッセージ"

反逆の音楽
rebel music レゲエ!

ボブ・マーリー&ジミー・クリフ 傑作レゲエムービー連続公開!

70年代その"ヤバいリズム"はロック界に大きな衝撃を与え、クラプトンやストーンズ等様々なミュージシャンに多大な影響を与えた。パンクロックともrebel music(反逆の音楽)レゲエは激しく共鳴し合い、鬱屈した若者達をたちまち虜にした。戦争、自然災害、貧困、孤独、未曽有の危機が日常になってしまった今こそ必見! 傑作レゲエムービー奇跡の連続公開!

★『ボブ・マーリー ラスト・ライブ・イン・ジャマイカ』2/9〜全国順次公開
★『ボンゴマン ジミー・クリフ』3/22〜全国順次公開

出演:ジミー・クリフ、ナディーン・サザーランド、ムタバルーカ、バーバラ・ジョーンズ、ミリアム・マケバ、ボブ・マーリー　監督:ステファン・ポール　編集:ヒルデガルト・シュレーダー
撮影監督:マイク・コンデ、ウド・ヒッツラー、ハインツ・レクサー、ヘリベルト・シュースター　1981年|西ドイツ・ジャマイカ|英語|93分|原題:Bongo Man|提供:ニューセレクト|配給:アルバトロス・フィルム

jimmy-cliff-movie.com

© 2022 Stefan Paul All Rights Reserved

『ボブ・マーリー ラスト・ライブ・イン・ジャマイカ レゲエ・サンスプラッシュ』 全国劇場にて絶賛公開中!

3.22 [FRI] 不滅のロードショー!
全国共通特別鑑賞券¥1,500(税込)好評発売中!
★劇場でお買い求めの方に本国アートポストカードプレゼント!(数量限定)

新宿シネマカリテ 03-3352-5645	シネ・リーブル梅田 06-6440-5930	KBCシネマ 092-751-4268
アップリンク吉祥寺 0422-66-5042	アップリンク京都 075-600-7890	ほか全国順次公開

「やればできるさ。やればできるって。
やって、やって、やり続けろよ! ほら、できたじゃん!」
ジミー・クリフの歌声は、東京のはじっこの団地に住んでいたガキにも、
たしかに届いた。
それで、俺は今もやって、やって、やり続けているのだ。
ありがとう、ジミー!!

真島昌利 ザ・クロマニヨンズ

ジミー・クリフとは未来へのノスタルジアで対談させて貰った。
あの時代は輝いていた、カウンターカルチャー・アウトサイダー・
ゲバルトもダンスもすべて輝いていた。
彼のことを思い出すと懐かしさが訪ねて来る。
とめどもなく優しい大地の香りと魂達の叫びが。
私の歌と作品は常に彼等に答えてきたのだ。
心から感謝、そして有り難うと言いたい。

喜納昌吉 音楽家

自分達で設営するステージ、熱帯雨林、体制との闘争、戦争への抵抗、
ラスタとしての誇り。
映像から伝わる「熱」が瞼の裏に焼きついた。

オカモトコウキ OKAMOTO'S

ジャマイカの街並みやファッション、カルチャーをはじめ
大観衆のライブシーンなど鮮明な映像で堪能出来ました。
そしてやっぱり歌声が本当に素晴らしい…
かっこよすぎる!
当時多くのロックミュージシャンも夢中になったのが分かります。
ジミーのメッセージやレゲエのグルーヴ、
改めて今の時代だからこそ強く響くものがありました。

亀本寛貴 GLIM SPANKY

ジミー・クリフは歌が上手い! ジミー・クリフは人気者!
ジミー・クリフは弱き立場の人々を希望へと連れて行く!

永野 お笑い芸人

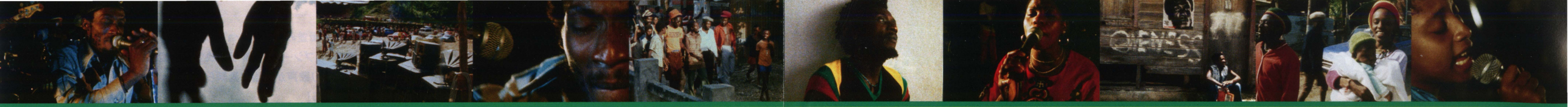
ルーツレゲエ、日本人にも合うんじゃないかな?
そんな思いから、半世紀前に自分もレゲエアルバムを作った。
それにしても素晴らしい曲ばかりだ!
仲間が団結して作りあげたステージは民族復興の祭りそのもの。
そこで歌われたジミーのメッセージは、
時と場所を超え地球の裏側の日本人の胸にも今なおささる。
いや、今だからこそ!

内海利勝 ミュージシャン

ボンゴマン ジミーへの愛、続々!

BONGO MAN JIMMY CLIFF

ボンゴマン ジミー・クリフ
DIGITAL REMASTER



暴力が激化した1980年のジャマイカの政界に背を向け、
ラスタ的な価値観を唱えるジミー・クリフ。
田舎の手作り音楽フェスでも世界ツアーのステージでも
カリスマ性溢れる彼のレゲェを満喫できます。

ピーター・バラカン ブロードキャスター

ボンゴマンは必ずやって来る！
ラスタのムードが苦手な人の心にも。
ジミー・クリフ、圧倒的！

鈴木圭介 フラワーカンパニーズ

彼が歌う【平和】と【解放】は決して古びない。
今もこれからも、聴かれるべき。
人類永遠のテーマ。

グレートマエカワ フラワーカンパニーズ

字幕を追うにつけ、シンプルな言葉の歌詞に
普遍性を見つけ感動しました。

竹安堅一 フラワーカンパニーズ

レゲエは心地よい…
そんな浅はかなモノではなく、もっと攻撃的な音楽だ。
改めて教えられた。
僕はジミー・クリフから真のロックを学んだ。

ミスター小西 フラワーカンパニーズ

冒頭のボンゴを叩きながら歌うジミークリフが圧倒的で
一気に引き込まれました。
彼のメッセージは現在においてより一層響きます。
バーバラジョーンズや当時13歳のナディーンサザーランド、
ムタバルーカらの貴重な映像も◎

Masato Komatsu Slowly

ジミー・クリフは常に意欲的な男だ。1993年、関西TV35周年企画で来日させたジミーと寿司屋に行ったが、そこで彼はワサビ入りトロを食った。今なら寿司を食べるジャマイカ人はいるが、当時はアイタル・フード以外を食べるジャマイカンなんてただの一人もいなかったから、びっくり。彼は映画に出演したり、ジョー・ストラマーとコラボしたりティム・アームストロングをプロデューサーに迎えたりといつも意欲的なのだ。それがこの映画にも表れている。

石井志津男 Riddim/OVERHEAT

レゲエ・レジェンド ジミー・クリフのストレートで強力なメッセージ 。
レゲエミュージックのパワーを感じる。

COJIE Mighty Crown / Scorcher Hi Fi

今も現役バリバリ、レゲエのアナザーヒーロー、
ジミークリフの意外と知られざる若かりし頃の姿。
レゲエがボブ・マーリー一人だけのムーヴメントじゃないのがよく分かる。
名曲「Bongo man」最幸！

三根星太郎 犬式 INUSHIKI

ボブ・マーリーがレゲエの殉教者だとしたら、ジミー・クリフはレゲエの伝道師と呼べるかもしれない。彼はレゲエという音楽を広くロック・ファンの間にも広め、ジミーの曲「ハーダー・ゼイ・カム」はキース・リチャーズやGRIGRI、ROCKERS REVENGE 、ブルースビンボーズ他が、「遥かなる河」はリンダ・ロンスタット、ジョー・コッカー、ブライアン・アダムス、UB40から上田正樹から原田芳雄までの世界中の多くのシンガーたちにカバーされた。またジミーの方も狭いジャンルに縛られることなく、キャット・スティーヴンスの「ワイルド・ワールド」のカバーを大ヒットさせ、パンクのクラッシュの「ガンズ・オブ・ブリクストン」をカバーし、ストーンズの『ダーティ・ワーク』にもコーラスで参加したり、2012年の自らのアルバム『REBIRTH』はなんとLAパンクの雄ランシドのティム・アームストロングにプロデュースを任せ、レコーディングしている！
そのようにレゲエを広くロックの世界にも伝道した彼こそレゲエの伝道師と呼ばれるに相応しい！この映画でのジミーのパフォーマンスをレゲエやロックだけにとどまらぬあらゆるリアル・ミュージックのファンたちに見て欲しいと切に願う者である。1984年によみうりランドでキング・サニー・アデとジョイント・ライブで来日したとき、運良く楽屋でジミーに会え、握手してもらった彼の力強い手のぬくもりが今でも忘れられない…

鳥井賀句 音評評論家

“天使の歌声を持つ不良”ジミー・クリフ
ジャマイカのリアルパンクスは、一体何と戦っていたのか？
その答えが、この映画にある
これはもう一つの『ハーダー・ゼイ・カム』だ

高橋慎一 映画監督「THE FOOLS 愚か者たちの歌」

2015年の来日ライブで観たJimmyCliffは劇中と変わらず、とってもパワフルでぴかぴかに輝いていました。「レゲエ」という言葉が存在しない頃から活動するミュージシャンが数少なくなって来ている中、常にしなやかにアップデートし続けるお姿、RESPECT。（瞑想がいいそうです）
それにしても手作りフェスがだいぶ魅力的！ 雨が降ろうが、夜中になろうが誰も何も言わないなんて最高にUNITY！
毎度思いますが、80年代のジャマイカ、どうにかして遊びに行けないものでしょうか。

asuka ando ラヴァーズロックレゲエシンガー

愛、自由、抵抗、団結。メッセージに溢れた映画。サウンドやパフォーマンスは言うまでもなく最高だけど、当時の社会的な背景やポリティカルな側面を知ってこそ、その魅力をさらに深く理解できるのだと思う。

下田法晴 SILENT POETS

生きるレゲエの至宝、ジミー・クリフの歌声に痺れて、グッときた。
かっこ良すぎ。
オープニングアクト&コーラスのバーバラ・ジョーンズもキュんときた。
1980当時のサウンドシステムの様子や、ラスタファリアンの精神性、
ガンジャカルチャー、そして政治の混乱と貧困。
逞しく生きるジャマイカン・ロッカーズたちのクールな姿にもやられました。

高宮紀徹 Reggae Disco Rockers

「蝶のように舞い、ライオンが吠えるように歌う」とたとえられたジミー・クリフの姿に加え、1980年当時のジャマイカ、特にキングストンのゲットーの様子や、逃亡奴隷をルーツに持つマルーンの人たちへのインタビューもあるこの映画『ボンゴマン』は、44年経った今、貴重な映像にもなっている。試写を見終わった後、ジミー・クリフがナイヤビンギ・ドラムを叩きながら「BONGO　MAN」を歌うシーンを何度も思い出している。往年のレゲエファンだけでなく、若い人たちにもぜひ観てもらいたい。

豊田勇造 シンガー・ソング・ライター

Jimmy Cliff
He is a real messenger of peace.
彼はこの映画の冒頭で「もしジャマイカに来たら家や身なりをみただけで人を判断しないでくれ、人々の心をみて欲しい、レゲエは心だ」と語る。
そこから映画「ボンゴ・マン」が始まる。
ジャマイカのキングストン市にあるトレンチタウン居住者の大半は貧しく治安も劣悪でガイドブックにも「間違っても近寄るべきではない！」と書かれている。しかし、ジミークリフを始め、多くのレゲエミュージシャンがここを活動の拠点としていた。
彼は現実を見つめ、自分と向かいながら力強く歌う。
「超えなければならない河が沢山ある。
だけど僕には向こう岸にたどり着く道が見つかりそうにない」
と“Many Rivers to Cross”で歌う。
僕も1978年にStuffのメンバーとレコーディングをした“Harder they Come”では「権力者が民衆に抑圧をかければかける程、彼らは滅びてゆくだろう」と歌う。
“レゲエの希望はアフリカから始まり全ての民族の復興を願い続けている、そして君の元にも届いて欲しい”と歌う！
ジミークリフこそが真の平和のメッセンジャーだと思う。

上田正樹 Soul/R&B Singer

天まで突き抜けそうな神秘の歌声、心と体を響かせるチャントは世界を席巻した。本物のレゲエを謳うボンゴマン、Channel Oneスタジオでのレコーディング風景は特に痺れた！

1TA Bim One Production

レゲエの革命児が伝える、
これぞ「International African Music（I AM）」！
幻のドキュメントが復刻。秘密のトビラを開けろ！

藤田正 音楽評論家

志に満ちた音楽。生命力溢れる歌。

三宅洋平 犬式 INUSHIKI

80年代初頭、むせかえるような人いきれに支配されたジャマイカの風景の中から流れ出すナイヤビンギ・ドラムの響き。レゲエ・シーンにおいていち早く商業的成功を収めながら、自らが演じた映画『ハーダー・ゼイ・カム』の主人公さながらに眼光鋭い剥き身のラスタマンとしても知られるジミー・クリフ、絶頂期のパフォーマンスを捉えた歴史的レゲエ・ドキュメンタリーの傑作！
本作のタイトルにも引用された『ボンゴ・マン』収録アルバム『GIVE THANKX』のポートレイトを60年代、NYのハーレムに住み公民権運動に沸き立つあの時代のブラック・ピープルを活写した『ハーレムの熱い日々』の吉田ルイ子が手掛けていたことを思い出した。
あの頃から何も変わっていないのだ。
分断深まる世界、終わることのない戦争、今なおバビロンに生きる全ての人たちに贈るREBEL MUSICがここにある。
ジミー・クリフのみならず往年のチャンネル・ワン・スタジオでのレコーディング・シーンや伝説のラヴァーズ・シンガー、バーバラ・ジョーンズをはじめ'90年代のダンスホール・ヒットで知られるナディーン・サザーランド10代の初々しい姿などレゲエ・ファン垂涎の貴重映像も多数収録！

薮下“Yabby”晃正 RELAXIN' WITH LOVERS

順不同／敬称略

BONGO MAN
JIMMY CLIFF
ボンゴマン ジミー・クリフ
DIGITAL REMASTER